

平成26年9月市議会定例会一般質問発言通告書（発言順）

◎ 代表質問

いばら月曜会  
7番 坊野 公 治

1. 瀧本市長3期目の施策について

- 1) 人を育てる住みよいまちづくりについて伺う。
- 2) 元気で笑顔あふれる住みよいまちづくりについて伺う。
- 3) 環境にやさしい住みよいまちづくりについて伺う。
- 4) 活気あふれる住みよいまちづくりについて伺う。
- 5) 安全・安心の住みよいまちづくりについて伺う。
- 6) みんなでつくる住みよいまちづくりについて伺う。

◎ 個人質問

2番 河 合 謙 治

1. 防災体制の再構築について

- 1) ソフト面の対応に対し、
  - ① 「特別警報」「警報」「注意報」の3種類の違いについて、また井原市ではどの場所を基準に、どのタイミングで発令、解除されているのかお伺いいたします。

②発令、解除された場合、お知らせくんでは、どのように知らせているのかお伺いいたします。

③個人で対応できない場合、市はどのような連絡網を取られるのかお伺いいたします。

2) ハード面の対応に対し、

①井原市内の土のうを備蓄している場所と備蓄量及び種類についてお伺いいたします。

②溝の清掃については、各自治会等で清掃を実施していますが、溝ぶたのある箇所は、清掃できないというのが実状で、大雨が降った場合、溝の上を雨が流れている状態です。今後ますますこのような場所が増えて来ると考えられますが、市において対策ができないかお伺いいたします。

2. 公共施設の対応について

井原市第5次行政改革大綱・集中改革プランにおいて、「公の施設の開館日や開館時間の再検討を行い、有効活用と管理運営の効率化を図るとともに、目的を終えたものや利用状況から必要性が薄れたと考えられるものについては、統廃合等を検討し、これらの施設のうち利用度の低い施設については、他用途への転用など有効活用を図る。」とありますが、

①開館日や開館時間の再検討を行い、有効活用と管理運営の効率化を図った効果についてお伺いいたします。

②施設の転用、統廃合したものがあるかお伺いいたします。

17番 井 口 勇

1. 定住促進について

1) 元気いばら定住促進戦略本部の位置づけ及び内容について伺う。

2) 美星地域への宅地分譲地整備について伺う。

1 番 西 村 慎次郎

### 1. 広域連携について

総務省において、地方自治法の改正により新たに導入された連携協約を活用した、地方公共団体間の新たな広域連携の取組を推進するため、地方公共団体に対して「新たな広域連携モデル構築事業」に係る提案募集が行われた。

今年6月27日に本事業の委託先11件が決定され、本市においては、11件中2件の中に、地方中枢拠点都市の関係市町村として加わることになっている。

その1件は、倉敷市が地方中枢拠点都市となる「高梁川流域圏」、もう1件は、福山市が地方中枢拠点都市となる「備後圏域」である。

そこで、次の①～③について伺う。

①今までの本市の広域連携の取り組み状況について伺う。

②「新たな広域連携モデル構築事業」として決定した「高梁川流域圏」と「備後圏域」のモデル事業の概要と現在の状況について伺う。

③今後の広域連携の取り組みに対して、井原市はどのように考えているか伺う。

6 番 三 宅 文 雄

### 1. 学力向上対策について

1) 2014年度全国学力テストの結果が8月25日公表された。県内の市町村の結果についても後日県教育委員会から発表された。

市教育委員会としてこの結果をどのように受け止めたのか、また今後どのようにして学力向上に向けて反映していこうとされているのか伺う。

2) 昨年度から始まった学力向上対策としての指導主事の学校派遣及びサポート授業（放課後、土曜日）について、この事業の施策効果はあったのか。検証した結

果は今年度にどのような形で反映されているのか伺う。

3) 県が今年度から実施している「頑張る学校応援事業」について、市教育委員会としての対応について伺う。

4) 県内においても全国学力テストの結果が、全国平均を上回った市もあると聞く。市教育委員会職員や現場の教員の先進地視察は行っているのか。視察を行っている場合、その検証はしているのか、また、その結果はどのように反映されているのか伺う。

5) スマートフォンや携帯電話で、通話やメール、インターネットに接続して使用する小中学生が多いそうである。使用する時間が長ければ長いほど全国学力テストの正答率が低迷し、学力テストの結果に悪影響を与えているとのアンケート調査の結果がこのほど文部科学省から発表された。

本市の小中学校の実態はどうか、市教育委員会としてどこまで把握しているのか、現状及び今後の方針について伺う。

## 2. 学校と地域の連携について

1) 不登校、いじめ、校内暴力、学級崩壊等々、全国的に見ても、岡山県は依然としてワーストに近いほうに入っていると聞く。教育環境、教育現場の改善が急がれるのは言うまでもない。学校運営にあたっては保護者を含む地域との協力体制が不可欠だと思うが、本市の現状と課題、そして今後の方針について伺う。

2) 教育再生は地域の課題でもある。少子化時代、高度情報化時代に対応した新しい取り組みが必要な時期に来ているのではないか。

市教育委員会として教育再生に向けた今後の方向性、考え方について伺う。

3) コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の推進に向けて取り組む考えはないか伺う。

1. 自主防災組織について

自主防災組織の基本的な考えと必要性及び市からの補助内容について伺う。

1. 安全・安心で住みよいまちづくりについて

安全・安心で住みよいまちづくりについて、その中でも特に子供たちに対する学校・地域等で行っている取り組みについて4点伺う。

①学校内での取り組みについて伺う。

②通学路の点検と対策について伺う。

③見守り隊の活動について伺う。

④不審者情報とその対応について伺う。

1. 市長の政治姿勢について

瀧本市長の3期目に当たり、向こう4年間で井原市をどういうまちに導かれようとされるのか、3点に絞り、その基本的なビジョンについて伺う。

1) 「健康寿命日本一を目指す」ことは誠に結構であるが、具体的には何を、どのようにして、この実現を目指そうとされているのか伺う。

2) 人口減少の中、「元気いばら定住促進戦略本部」を設置されると報道等で聞いているが、その体制、あるいは今まで以上の新機軸としての定住促進策具体戦略を通し、人口減少の歯止めの目標、若者の働く場の確保についての基本指針、並びにその具体的目標数値があれば伺う。

3) 安倍内閣において、今まさに「まち・ひと・しごと」をキーワードとして、「地方創生」の推進が行われようとしている。その大きな政権の目玉として、本年5月の「地方自治法」の改正が先取りした形で、倉敷市、福山市を「地方中枢拠点都市」としてのモデル事業が選定された。井原市は、岡山県内にあつては倉敷市を中心とする「倉敷市高梁川流域圏」と、広島県内にあつては福山市を中心とする「福山市備後圏域」の2つの新たな広域連携モデル事業の構築に向けた取り組みが開始され、「地方が踏みとどまるための拠点」の形成、まさに「地域の生き残り」をかけた「まちづくり」のビジョンづくりが開始されている。

そこで以下3点について伺う。

①両圏域において、井原市は今後の飛躍への期待をどういう分野で、どのように描いているのか。

あわせて、「一歩前」の立場で井原市の産業活性化、市民福祉の向上等といった具体的連携策で、これら計画策定への位置づけ、予算確保等を行おうとしているのか。

②計画策定には、市民の意見を基本に、議会での議決が必要であるが、計画に盛り込む事業概要、まちづくりへのビジョン等、市民意見をどのように計画に反映させるのか。

③今回の連携協約には、その具体的内容や実施スケジュール、総事業費を初め各年度の事業費等の見込み、さらには、地域経済や生活関連機能に関する明確な成果指標も含めて記載されることとなると思うが、現時点で、両圏域における井原市の位置づけをこの中にどう生かすつもりか。

## 2. 地域の医療・介護・福祉を総合的に確保するためのビジョンについて

1) 井原市病院事業改革プラン(平成21年3月～平成25年度)の成果と課題について伺う。

特に、医師の確保策の具体と経営の効率化の両面から伺う。

2) 先の国会で、地域において「効率的でかつ質の高い医療供給体制」を築くとともに、「地域包括ケアシステム」を構築することを通じ、地域における医療及び

介護の総合的な確保を推進するため、いわゆる「医療介護総合確保推進法」が成立した。

そこで伺う。

①本年2月の本会議の場で明らかにされた「保健・福祉・医療」の関係者による定期協議の概要と明らかとなった課題等について

②地域医療の当面する課題と、第6期介護保険事業計画との具体的連携について、例えば、訪問診察、訪問介護、訪問リハビリ・服薬指導・栄養指導管理・口腔ケア等「在宅での生活支援の具体策」(含認知症高齢者対策)における市としての主導的役割について

3) 過疎地における最大の課題としての医師の確保や岡山・広島両県の県境を越えた広域医療の推進の観点から、笠岡市(笠岡市民病院)を含む圏域医療体制のあり方について、その基本的な考え方があれば伺う。

あわせて、国の大きな動きの中で、医療・介護にかかる費用の総量抑制策について、及び効率的で質の高い医療サービス提供体制を目指す「非営利ホールディングカンパニー型法人制度」導入に向けた井原市としての取組姿勢について伺う。

9番 上野安是

#### 1. 「いばらっ子イノベーション35推進事業」の成果について

井原市においては、本年度(平成26年度)より子どもの「学力向上といじめ防止」を目的として、35人学級実施による少人数教育を「いばらっ子イノベーション35推進事業」として取り組んでいる。

当該事業に取り組んで半年が経過したところであるが、これまでにどのような成果があがっているか伺う。

#### 2. 児童虐待について

「全国で児童虐待7万件突破」という報道がなされた。子ども達を守るためには今まで以上に関係機関が連携を図っていくことが必要と思われる。

井原市における児童虐待の現状と防止対策について伺う。

1. 認知症高齢者対策等、全般について

昨年9月定例会において認知症高齢者についてお伺いしましたが、ちょうど1年が経過する中、認知症高齢者対策、認知症高齢者とその家族を支える地域づくりの26年度現在の新規施設も含めた進捗状況を伺う。

①25年度整備予定であった認知症対応型通所介護事業所、グループホームの整備は26年度に延期したが、現在どのようになっているか伺う。

②昨年9月定例会で「第6期井原市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に向けて認知症高齢者に対する施策を協議する」旨の答弁でしたが、現状の施策に対して足りない事の実態を伺う。

③認知症予防・認知症(アルツハイマー型認知症)に対して今後の考えを伺う。

2. 学校教育等、全般について

現在、総務文教委員会の所管事務調査において、小中学校の教育環境について調査研究中ではありますが、大きく分けて4点伺う。

①頑張る学校応援事業について、市内13小学校・5中学校でどのような対応をしているのか、また、教育委員会の見解を伺う。

②各学校のICT機器の利用成果及び問題点・今後の活用意欲・増設の希望について伺う。

③予習・復習勉強を子供たちがタブレット端末を使って勉強することで有名な佐賀県武雄市の官民一体で取り組む反転授業について教育長の見解を伺う。

④教育の目的について伺う。



### 1. 空き家の適正管理について

高齢化に伴い全国で空き家の増加が顕著であり、報道では総務省の調査で全国の住宅の7戸に1戸が空き家となっている実態が報告され、都市・地方関係なく深刻な状況で大きな社会問題となっています。私も平成22年12月議会と平成25年6月議会で、空き家対策条例制定に向けた取り組みについて質問をしましたが、両議会とも、現在のところ考えていないとの答弁でありました。しかし、昨今の現状と将来予測を見るに至り、国でも空き家対策特別措置法案が議論される現状にある中で、多くの自治体では法案成立を待たずに「空き家等の適正管理に関する条例」が制定されています。近隣の笠岡市でも条例素案の意見公募が実施される状況の中で、本市の対応について伺います。

### 2. 地域包括ケアシステム構築に向けての互助の拡充について

団塊世代が75歳を迎え後期高齢者となる2025年に向け、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスを住み慣れた地域で高齢者が一体的に受けられる「地域包括ケアシステム」の構築が急がれています。自治体ごとに条件や環境が異なる中で、地域の実情に即した取り組みが必要となると考えられます。地域包括ケアシステムは「自助・互助・共助・公助」の組み合わせにより成り立っていますが、今回、互助について質問をします。

高齢者との会話の中で、電球・蛍光灯の取り換えやゴミ出しや買い物等といった少しの手助けが大変助かると聞きます。介護認定者はサービスでの対応も可能です。また、本市の取り組みとして軽度生活援助サービスがありますが、急激な高齢化が進む中で十分とは思えません。ヘルパー等の人材不足が大きな問題となる中、地域のボランティアの発掘と育成を今まで以上に取り組む状況にあると考えます。浅口市では高齢者支えあいサポーター事業として、支えあいサポーターの育成に積極的に努めるとともにポイント制度を導入し、互助の一翼を担ってもらい成果を出していると聞きます。他市でも類似の取組を実施されている自治体も多くなりつつありますが、本市の対応について伺います。

### 3. 土砂災害危険箇所・土砂災害警戒区域の周知対策について

1) 広島で8月、集中豪雨で大規模な土砂災害が発生し70名を超える死者を出す

大災害が発生しました。また、全国各地で1時間に100ミリを超える豪雨を観測する状況の中で、本市としても更なる減災対策が急がれます。

本市では、豪雨による浸水や土砂災害の危険区域や警戒区域を記したハザードマップを全戸に配布していることは十分評価されますが、広島の実害でも住んでいるところが土砂災害危険区域と知らなかったとの声が多くありました。そこで提案ですが、本市の土砂災害危険区域や警戒区域に看板を立て、日常より地域住民に周知の取り組みをしてはと考えるべきか伺います。

2) 市内の各避難所についてハザードマップでは水害と土砂災害での避難場所として適・不適が記されていますが、地域住民には十分な周知ができていないのではと考えるべきです。そこで提案ですが、避難所となる避難所掲示板に、水害・土砂災害時の避難場所の明示をしてはと考えるべきか、本市の考えを伺います。

3) 公民館に地域ごとの拡大ハザードマップを掲示し、危険区域の周知を図る取り組みはできないか伺います。

4) 砂防ダム等の今後の計画について伺います。

#### 4. 防犯カメラの増設について

倉敷市で下校途中の小学5年生が行方不明となり、数日後、無事に保護される事件が発生しました。その際、目撃証言と防犯カメラの解析で犯人が絞りこめたことから、防犯カメラの設置の機運が高まり、それを受け、県でも防犯カメラ設置支援事業補助金制度がスタートしています。現状、本市では公共施設に69台を設置しているとの事ではありますが、外部の一般往来を対象とした設置はないようです。頻発する児童・高齢者の行方不明の事案を考える時、また、児童生徒、高齢者の安全・安心を確保する立場から防犯カメラの設置が急がれますが、今後、整備についてどのようにお考えでしょうか伺います。

#### 5. ふるさと納税の現状と今後の取り組みについて

ふるさと納税がマスコミ等で注目され、現在、多くの自治体で納税額の増加に向けたさまざまな取り組みが試みられています。特に、ふるさと寄付金に伴う、お礼の品目などの充実が特徴のようであり、本市の状況はオリジナル名刺及

びデニム製名刺入れ、井原線往復無料券、井原市ふるさとパス（田中美術館・中世夢が原・美星天文台）無料入場券、季節限定のぶどう・ごんぼう・美星のハムなどが贈られているようではありますが、積極的な自治体と比べてみる時に見劣りを感じます。他市では、お礼の品目をする金額を決め、多くの品目を揃えて選択肢を魅力として寄付の増加を図っているようです。また、寄付額の半額程度のお礼の品（肉・海産物・米・お酒）等を送ることで、地元出身者以外の多くの人からの寄付を募るとともにリピーターを増やすことで地域経済の活性化にもつなげています。本市としても積極的な対応が必要になってきていると思いますが、本市の今後のふるさと納税に対する考えを伺います。

11番 西田久志

1. 井原市の人口減少問題について

ここ数年井原市における人口減少は著しいものがある。早急に対処するべきだと思うが、どうお考えか2点伺う。

①企業誘致について

②定住促進について

2. 国民健康保険の安定運営について

市民が生活をしていくうえで自分を守る大切な国民健康保険制度。25年度の実績及び今後の運営見込について伺う。また、今後の税率についてどのように予想されるか伺う。

3. 井原あいあいバスの安全運行について

市民生活に定着した井原あいあいバスの運行管理について伺う。

20番 森本典夫

1. 瀧本市長の今後4年間の市政運営について

先の市長選挙が無投票当選ということもあって、今後4年間の市政運営について、私たち市民にはほとんど知らされていません。

わずかその施策の一部がうかがえるのは、新聞報道のインタビュー記事とか後援会討論資料として出されている「新たな決意 さらなる飛躍」というパンフレットに書かれた「新たな施策」の大きくは6項目（この内21の小項目）です。

この施策の全体像と、この小項目の中で何が重点施策なのか、お聞かせください。

## 2. 「土砂災害警戒区域」等に住んでいる市民の生命を守る施策について

今年は台風や集中豪雨・ゲリラ豪雨で甚大な人的被害と物的被害が全国に及んでいます。

最近では隣県の広島県の土石流等による被害で、多くの犠牲者や家屋の損壊が起きました。報道によりますと、土砂災害警戒区域等の被害だということです。

そこで井原市内の土砂災害警戒区域等に何世帯の方がお住まいなのか。そして、行政としてこの方々の生命・財産を守る手だてをどう講じておられるのか、その施策について詳細をお聞かせください。

## 3. 難聴者にとって画期的な「コミュニケーション」の購入について

「コミュニケーション（商品名）」は、難聴の方への聞こえを改善するスピーカーで、もっとコミュニケーションしてもらいたいという目的で開発されました。

この「コミュニケーション」を市が購入し、必要な窓口に設置したり、難聴の児童・生徒がいる学校に設置するなど、難聴者が補聴器をつけなくても言葉が聞き取れ、日常会話が交わせるような環境整備をしてはどうですか。

## 4. 井原市福祉基金助成事業の「紙おしめ利用券」の助成対象の拡大と助成額の増額について

井原市福祉基金助成事業で紙おしめ購入の助成を行っています。この助成は、現在「紙おしめ」と「尿とりパッド」の2点が助成対象になっています。365日自宅で大変な介護をされている方から、「介護をされていてこれ以外のもの（痰を取るティッシュ、室内で用を足すので消臭剤、大・小便を取る容器を洗う洗剤など）が日常的に必要な」という声を聞きます。また、民生委員さんに聞いても、「そういう声をよく聞きます」とのことです。このように介護していてど

うしても必要なものを助成対象として加えてはどうでしょうか。

また、助成額の拡充をしてほしいとの声も良く聞きます。これらの介護者の声に耳を傾け実現していただきたいと思いますがお考えをお聞かせください。

#### 5. リフレッシュ公園内の芝生公園に「あずまや」を建設することについて

リフレッシュ公園内にはところどころ「あずまや」があります。ただ、芝生公園内には「あずまや」がありません。この芝生公園で子や孫が元気よく遊んでいるのを両親や祖父母が見守っている間、日影がほとんどありません。

子や孫の見守りが長時間になると夏場は暑さで特に大変です。立派な「あずまや」でなくても良いのですが、暑さをしのぎながら子や孫の元気に遊ぶ姿が見守れる「あずまや」を芝生公園内の最適な場所に建設してはどうでしょうか。

#### 6. 「井原あいあいバス」を高齢者が利用しやすくする工夫について

「足腰が弱くなって「井原あいあいバス」に乗るのが大変難しいので、お金がたくさんいるけれども仕方なくタクシーを利用している。何とかバスを利用しやすいようにしてほしい」という高齢者の声をよく聞きます。

「あいあいバス」利用者増を目指して、「公共交通会議」等でも様々な検討をしています。

しかし、利用したくても乗る時点で敬遠される状況が生まれております。このことをまず改善し、一人でも多く利用していただくことを考えてはどうですか。予算はかなり掛かりますが、車両更新時に低床バスにするということも考える必要があるのではないのでしょうか。

#### 7. D I Y型空き家改修事業補助金制度の創設について

市では人口増対策等として「空き家バンク」という制度があり、現在運用されています。しかし、利用者はあまりおられないのが実情のようであります。

そこで、国土交通省が最近進めようとしているのが、住宅リフォームのやり方としてD I Y (D o I t Y o u r s e l f) 型空き家改修事業です。

この方式は、現在の住宅リフォーム補助制度より柔軟で新しい面も含んだ内容であります。この方式を採り入れた新たな補助金制度を創設し、市内外に大いに広報して一人でも多くの方が井原市に転入・定住し、人口増につながるようにしてはどうでしょうか。